



佐土原ロータリークラブ週報



2004-2005年度R I テーマ

5/31(火)

会長:林 厚雄	会計:柳田光寛
副会長:岩切正司	会報委員長:宮原建樹
幹事:藤堂孝一	

6/3

第881回 平成17年5月11日(水)

本日のプログラム

1. 点鐘
2. 食事の時間
3. ロータリーソング
「我等の生業」
4. 四つのテストの唱和
5. 会長の時間
6. 幹事報告
7. セレモニー
8. 会員卓話
9. 点鐘

第880回の記録 平成17年4月27日(水)

☆会長の時間 会長 林 厚雄君

2005年度米山奨学生の紹介資料が届いています。名前はグニマラ・デヴィ・イレングバムさんで女性です。国籍はインドで年齢は24歳です。学園木花台に住んでいらっしゃいまして、宮崎大学農業研究科に在籍されています。

彼女が日本に留学を希望した理由の小論文の走り書きが同封されていますのでご紹介いたします。「日本に留学した目的は、博士課程でLAMP法を用いた魚病診断法の確立について研究する事です、留学先に日本を選んだ理由として、日本が、経済基盤や科学技術の発展において、アジアで最も進んでいることと、漁業は日本の経済において大変重要な役目を果たしていますし、養殖業も高度に発達しています。私の研究は商業的に重要な魚介類における病原体検出のための診断技術の発達に関係があります。その研究を行えるには日本の大学には最新の設備を備える研究施設、また図書館とともに良い実験施設を持っていると先輩から聞かされました」以上のようなことです。

自分の勉強の為ではあると思いますが、国の経済発展のために重要な勉強に来られている人に、我がクラブが何がしかの貢献が出来ることは大変素晴らしいことだと思います。

米山奨学生受け入れクラブとして、恥ずかしくない対応をしたいものです。

※ 参考資料 米山奨学生数の推移

1994年	897名
1995年	949名
1996年	999名
1997年	996名
1998年	1,100名
1999年	1,098名
2000年	1,097名
2001年	999名
2002年	1,000名
2003年	1,005名
2004年	1,020名

インドの紹介

国名(日本語)	インド
国名(英語)	インド共和国 Republic of India (Bharat Ganarajya)
首都	デリー
面積	328万7263平方キロメートル (日本の約10倍)
人口	10億4970万人(2003年7月)10億 人を突破し21世紀中には、中国を抜いて世界一になるとも言われている。
時差	日本時間マイナス3時間30分。 日本の正午はインドの午前8時30分。 サマータイムは採用していない。

例会場:石崎浜荘 0985-73-1913 事務局:〒880-0303 宮崎郡佐土原町東上那珂10255 齋藤美喜代
例会日:毎週水曜日 12:30 ~ 13:30 TEL:0985-30-5766 FAX:0985-30-5788

幹事報告 幹事 藤堂孝一君

1. 例会変更通知
宮崎南RC 5月2日(月) 特別休会
2. R I 100周年公式記念メダルの申し込み案内が
きております。

出席報告 出席委員長 梶田與之助君

会員数	29名
例会出席者	20名
出席率	68%
マークアップ者数	2名
修正出席率	76%
欠席者数	
今日のお客様	高鍋R・C 木村貞夫君

ハッピーボイス

結婚25年目になります。
銀婚式をロータリーの皆様のご指導により迎え
ます。有難うございます。 宮原 建樹

大正が遠くなりんけり。今年で79歳となり曾孫
も、男女2人となりました。本日はお祝いの品
を頂き有難うございました。 濱田 操

いつも家族の為に頑張ってくれる妻に感謝感
謝です。 後藤 明夫

結婚記念祝いを頂き有難うございました。これ
からも夫婦仲良く過ごして行きたいと思ってお
ります。 吉田康一郎

結婚祝い有難う御座いました。早いもので銀婚
式を迎えました。これからは老いて行く訳です
が、仲良く老後を楽しみたいと思います。 岩下 廣美

早いもので50歳、まだまだすべて元気です。
郡司 武俊

あっという間に79年の歳月が過ぎました。人生
は夢の如く、また幻(まぼろし)の如しとしみじ
み感じます。誕生日のお祝いを戴き、心から御
礼申し上げます。 垂水 敏雄

■ 四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か

「質問力は重要」と題しての文献をご紹介いたします。
どうしたら利益が上がるのか?そこにフォーカスを
当てる人が非常に多いと思います。

■ しかしここで、少し立ち止まってみてください。
何かことを為すにおいて、質問力というものが非
常に重要です。
どのような質問をするかによって、導き出される
答えが変わってきます。
■ 「どうすれば儲かるのか」と、100人いたら99人の
人はそればかりを追求しています。
その質問がもちろん効力を發揮することもありま
しょう。しかしながら、ここで質問を変えてみる
のです。

どうしたら、より多くの人に、よりたくさんのも
のを、より効率的に提供し、価値貢献をすること
ができるのか、と。

■ そして「どうしたら、より貢献できるのか」とい
う質問を自身にかけたあとにさらに細分化し
てみるのです。
すると、それは「より多くの人に」ということであ
ったり、「多くのもの」であったり「より効率
的に」であったり「より密度を濃く」であるとか、
さまざまな要素があることが分かります。そのよ
うに細分化して質問し、それに対する答えを考え、
実際に移すことによって、あなたはより世の中には
価値を与えることができるようになってくるのです。
■ その価値を与えるのが先で、利益は結果として後
からついてくるもの。

あなたが世の中に対して提供した価値の10分の1の
ものが自分に返ってくる、と故松下幸之助翁は言
われています。

■ ところが多くのは、質問をする段階で、どうや
つたら儲かるかという問い合わせが先んじてしまうがゆ
えに、取ろう取ろうという意識が先行し、出すこ
とを考えなくなってくるのです。それゆえかえつ
て儲からなくなるのでしょうか。

■ 逆に、「いかにして与えることができるか?」とい
う質問を常に自分に問い合わせ続ける。それがで
きれば、今よりもずっと高いパフォーマンスを、
ビジネスの現場において発揮することができるこ
とでしょう。.....

●ことを為すにおいて、「質問力」が非常に重要な
こと。質問が変わればおのずと答えも変わる。
●いかに儲けるかということより、いかに与えるか
という問い合わせを常に自分に投げかけ続けること。
●なぜなら利益というものは、あなたが世の中に与
えた価値の10分の1が手元に残るものであるからだ。
●利益を10倍にしたいなら、100倍の貢献をするべし。
「平成・進化論。」

上記はロータリーの職業奉仕の精神に似ていると思
いませんか。

次回予告

- ☆5月18日(水)
ゲスト卓話
- ☆5月25日(水)
次年度活動方針

3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか